

「男らしさ、女らしさってなんだろう

～これからの自分史をつづるために～」

実施報告書

- ◆日時 平成27年8月28日（金） 10:00～12:00
- ◆会場 豊田産業文化センター 小ホール
- ◆参加者 登録団体 13団体154名（うち男女共同参画研修 9団体145名）
一般25名 合計179名
- ◆目的 センター利用登録団体及び広く市民に対し、男女共同参画社会の理解を深める機会とし、団体活動を始め、家庭、地域、職場などで実践することを通し社会全体の男女共同参画の推進を目指す。
- ◆講師 伊藤 公雄 氏（京都大学大学院教授）
- ◆概要

○はじめに

現在は、変化の時代である。それは、女性の活躍する時代であり、男性主導社会の中で変化を求められる時代である。

1 文化や歴史と「らしさ」

①性の多様性

- ・性染色体がXXXやXYYの人もある。インターセックス（両性具有）の人もある。性別違和（性同一性障がい）の人もある。同性愛や両性愛の人もある。
- ・LGBTiが日本での調査で7.6%いる。

②文化や歴史によって変化する男女の意識や役割

- ・ロシアの医者の多数派は女性である。家政学はヨーロッパでは男性のもの。
- ・女子マラソンがオリンピックで正式種目になったのは、1984年のロサンゼルスから。
- ・スイスの女性参政権は国レベルで1971年、州レベルでは1990年からである。
- ・日本の伝統文化は西欧や中東の男性中心文化と比べて女性の活躍する文化。最高神は女性、古代の女性君主や女性作家たちの存在。
- ・戦国時代の宣教師が見た日本
料理は男性の仕事。
- ・幕末から明治初期の日本に来た外国人が見た日本の男女
女性の地位の高さ（武家を除く）、育児をする男性
- ・明治時代の徴兵制と家父長制
徴兵制では国民皆兵と言っていたが、成人男性のみで差別が現れた。家父長制が庶民を含めて徹底され、離婚が激減した。

2 世界が変化した1970年代

①根本的に変化した男女関係

- ・世界的な人権と環境への取組の本格化



- ・女性の権利が日本以上に制限されてきた欧米諸国の変化

②1970年代以後の日本の男女労働

- ・他の諸国が男女平等を進める一方で、日本は男性の長時間労働と女性の家事・育児プラス条件の悪いパート労働の組合せで経済成長を進めた。1970～80年代の成功体験から抜け出せないままの日本がある。

3 取り残されつつある日本社会

①世界経済フォーラムによるグローバル・ジェンダーギャップ指数

- ・2014年において日本は142か国中104位。25年前くらいまでは日本は教育大国であった。OECDの大学進学率は女性が男性より10%程度上回っているが、日本はその逆である。中学3年の成績と大学進学率の調査では、中の下で男4割、女2割と出ている。日本では性別によって大学進学を制限している。
- ・同フォーラムが男女平等に配慮する理由は、男女平等が社会経済に活力を与えるからである。
- ・重厚長大産業から情報・サービス業へ産業が変容する中で、企画力や組織の活力が求められる。男性中心のままでは活力が生まれない。多様な人が活躍しないと活力が生まれない。女性が活躍できない社会は世界においていかれる。

4 なぜ男女共同参画が必要なのか？

①人権という理念の国際的共有

- ・男女平等はその社会の民主主義のバロメータである。

②少子高齢の日本社会を支えるために

- ・主に男性中心に支えられてきた1970年代以後の日本社会は、現役世代の減少で男女で共に担わないと支えきれない状況になっている。

③次世代の安定した成長のために

- ・高度成長以後の子育て（お母さんとテレビに依存）から家庭・地域を貫く老若男女共同の子育ての仕組みづくり（三方一両損を三方一両得へ）が必要。

④まちづくり、防災、観光の発展のために

- ・男の合理主義だけでは進まない。温かみのあるまちづくりに女性の力が必要。
- ・まちづくり等において、健全な成人男性だけの視点から、老若男女の視点へ変えることが必要。
- ・女性が心地よい観光地でないと成功しない。

5 男性にとっての男女共同参画

①女性の活躍のためには、男性の意識変化が必要。

- ・男性の固定的な性別意識

②男らしさは男性にも重荷

- ・過労死や自殺の実態

③求められる男性の自己変革

- ・剥奪感の男性化 社会の変化の中で「剥奪」感情が男性に生まれつつある。

③男性の女性観

- ・「あまえながらいばる」という関係。女性への依存傾向。
- ・支配することなくたくましく（ドイツの男性運動のスローガン）

④男女のコミュニケーションギャップ

- ・用件のみの男性の会話と共感を求める女性の会話との違いを互いに理解することが必要。



⑤「平等」の勘違い

- ・機械的に同じにすることが、平等ではない。トイレの面積は、今のままの仕組みなら女性のトイレは男性のトイレの3倍必要。

○おわりに

人はそれぞれいろいろな要素を持った人間である。男女平等を進めるにはきめ細やかな配慮が必要。単純に同じにすればよいというものではない。お互いが多様性を認め合いながら性別に関わりなく元気の出せる社会、男女共同参画社会が必要。

◆質疑応答

(問) 大学進学イコール教育レベルと考えるのはいかがなものか。

(答) お見込みのとおり。経済の発達した国々は高等教育に力を入れるという形により成長の要にしようとする戦略をとっている中で、日本は出遅れている。日本は教育大国であるという幻想を持っている方がいるので、世界で大きく教育の仕組みが変化する状況を見て日本が出遅れているという危機感を共有してもらえればと思う。